

にいがた摂食嚥下障害サポート研究会講演会

共催：新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻・口腔生命福祉学専攻

後援：一般社団法人新潟県歯科医師会，一般社団法人新潟県歯科衛生士会，一般社団法人新潟県言語聴覚士会

**テーマ** 臨床最前線

**日時** 平成30年5月19日（土）午後1時00分～午後4時30分

**場所** 新潟ユニゾンプラザ

**参加者数** 127名

**参加企業** 12社

**タイムスケジュール**

12:00 受付開始

12:30 総会

13:00 開会挨拶

秋元幸平先生（にいがた摂食嚥下障害サポート研究会会長）

13:05 事例報告（座長：真柄 仁先生（新潟大学）

佐藤順子先生（新潟市口腔保健福祉センター）

君賢司先生（会津若松市開業）

宮福子先生（明倫短期大学附属歯科診療所）

永井正志先生（加茂市開業）

14:00 休憩 企業展示

14:20 講演 座長：辻村恭憲先生（新潟大学）

14:20-15:20 「嚥下に関する雑学王を目指して—嗅覚基礎・食品科学・嚥下臨床の追及—」

講師：上羽瑠美先生（医師，東京大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教）

15:25-16:25 「口から食べる幸せを包括的にサポートするために」—KTバランスチャート活用のススメ—

講師：小山珠美先生（看護師，NPO法人口から食べる幸せを守る会理事長）

16:25 閉会挨拶 井上 誠先生（新潟大学）

## 概要

本講演会では「臨床最前線」をテーマとして2名の講師講演、4名の症例報告が行われた。

最初のセッションでは、新潟大学医歯学総合病院にて摂食嚥下治療登録医制度のもとで研修を受けた4名の先生から事例報告があった。新潟市口腔保健福祉センター歯科の佐藤順子先生は、新潟市歯科医師会、新潟医療センターとの連携によりVF、VEを活用した対応を行った症例、会津若松市開業の君賢司先生は、自院における白板症術後遺症としての準備期、嚥下口腔期障害に対してVEによる検査を行いながら食形態を考えた症例、明倫短期大学附属歯科診療所の宮福子先生は、サルコペニア、口腔機能低下症を伴う咽頭期障害患者に対して食形態の再検討を行った症例、加茂市開業の永井先生は、終末期患者に対するアプローチの中で多職種連携の必要性を再認識された症例を紹介された。永井先生は、本研修事業修了者を対象としたアンケート調査結果についても報告された。

20分間の休憩時間中、ステーション会員のブースには参加者が集まり多くの情報交換が行われた。

休憩をはさんで後半は2名の先生方に講演いただいた。

講演1では、東大病院耳鼻科の上羽瑠美先生から、「嚥下に関する雑学王を目指して-嗅覚基礎・食品科学・嚥下臨床の追求-」と題して、上羽先生の興味を発端とした基礎から臨床にいたる多くのデータを紹介いただいた。基礎研究では、嗅覚機能の加齢や環境変化に伴う機能、細胞、遺伝子レベルへの影響に関する最新データ、とろみ剤の種類とその特徴、また液体によるとろみの付き方の違いが紹介され、臨床では、外科手術とリハビリテーションを組み合わせたアプローチの中で、患者自身の頑張る意識が重要であることが強調された。

講演2では、NPO法人口から食べる幸せを守る会会長の小山珠美先生から、「口から食べる幸せを包括的にサポートするために-KTバランスチャート活用のおすすめ-」と題して、本臨床分野の課題である、経管栄養依存、禁飲食神話への過信、食べることの権利剥奪、支援スキルの脆弱性の解決に向けては、真の食支援を考えた多職種連携が不可欠であることを強調された。先生の思いを形にしたKTバランスチャートには、専門家としての知識やスキルだけでなく、「救いたい」という思いが強いことを感じた。

限られた時間の中で多くの先生方から質問をいただき、講演会は盛会のうちに終了した。

**参加者によるアンケート結果** (有効回答数 86名 回答率 67.7%)

**1. 参加者の性別**

①男性 28名                      ②女性 57名

**2. 参加者の年齢層**

①10 歳代 0名    ②20 歳代 13名    ③30 歳代 21名    ④40 歳代 13名  
 ⑤50 歳代 25名    ⑥60 歳代 11名    ⑦無回答 3名

**3. 参加者の職業**

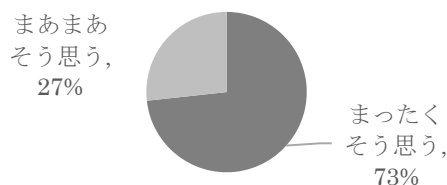
①学生                              3名  
 ②医療関係者                      72名

内訳： 医師 2名, 歯科医師 16名, 歯科衛生士 11名, 看護師 9名, 言語聴覚士 18名  
 理学療法士 2名, 作業療法士 2名, 管理栄養士 9名, 無回答 3名

③会社員・公務員                5名  
 ④その他                            2名  
 ⑤無回答                            4名

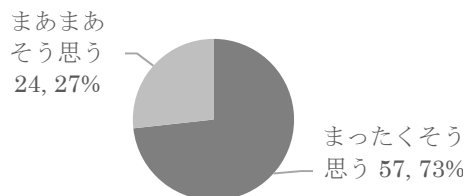
**4. 今回の講演会は有意義なものでしたか**

①まったくそう思う              63名  
 ②まあまあそう思う            23名  
 ③どちらとも言えない            0名  
 ④あまりそう思わない            0名  
 ⑤全くそう思わない              0名



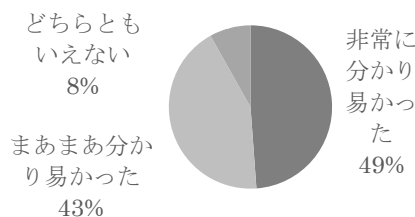
**5. 今回の講演会はあなたの興味に対して適切でしたか**

①まったくそう思う              57名  
 ②まあまあそう思う            24名  
 ③どちらとも言えない            5名  
 ④あまりそう思わない            0名  
 ⑤全くそう思わない              0名



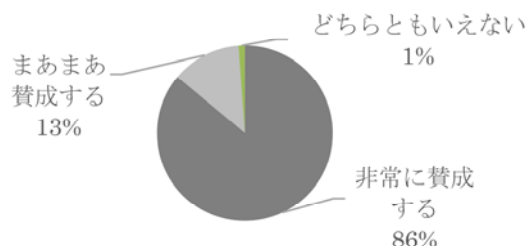
**6. 講演内容の難易をどう感じましたか**

①非常に分かり易い              42名  
 ②まあまあ分かり易い            37名  
 ③どちらとも言えない            7名  
 ④あまり分かり易くない          0名  
 ⑤全く分からない                0名



**7. 今後このような主旨の講演会を開催することについては**

①非常に賛成する                74名  
 ②まあまあ分かり易い            11名  
 ③どちらとも言えない            1名  
 ④あまり分かり易くない          0名  
 ⑤全く分からない                0名



## 8. その他の意見

- ・小山先生の「医療目線」ではなく「患者目線」のケアの大切さに胸打たれました。多職種の連携がもっとうまくいくといいと思いました。
- ・有意義な研究会でした。有難うございました。
- ・大変有意義なお話でした。会場はさらに大きな所が必要なようです。
- ・小山先生の講義が聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。KT バランスチャートを活用し、食支援に関われればよいと思い、実践にうつしていきたいと思いました。再度機会があるのであれば、小山先生の講演が聞ければいいと思います。
- ・様々な職種の方からの様々な視点でのお話が伺えてとても勉強になりました。
- ・井上登太先生の講義がきければと思います。
- ・締め切り後にもかかわらず、受け入れ下さり、ありがとうございました。
- ・とても参考になりました。自分自身、もっと勉強したいです。
- ・私にとって小山先生は3度目の講演でしたが、いつもすごいです。いつも課題を与えられてしまいます。
- ・慢性期の患者さんの食支援を考えるうえで有益でした。事務局並びに講師の先生方、どうもありがとうございました。
- ・共通認識をもってとりくめるよう、意識を高めていきたいと思う。
- ・明日からの仕事にとっても参考になりました。

## 当日風景



新潟ユニゾンプラザ入り口



秋元幸平会長挨拶



会場内



真柄仁先生（座長）



佐藤順子先生



君賢司先生



宮福子先生



永井正志先生



休憩時間を利用したステーション会員企業との情報交換



辻村恭憲先生（座長）



上羽瑠美先生



小山珠美先生



会場からの質問

